

# 三好池生物調査について

愛知用土地改良区

## 概要

**目的** 水資源機構が平成30年から令和4年にかけて実施中の、愛知用水三好支線緊急対策事業により、三好池が落水されているので、管理者である愛知用土地改良区として、関係者の協力を得て生物調査を行う。三好池の環境を知り、今後の管理に生かす。

**調査内容** 地引網等による魚類調査および外来種の駆除（網目 2月：20mm角 11月：5mm角）

**実施日** 令和2年11月30日（月）（事前調査：令和2年2月20日）

**参加者** 約100名（水資源機構、愛知県、みよし市、みよし土地改良区、任意団体、愛知用土地改良区等）



## 魚類紹介

※数字は事前調査を含む捕獲数

	<b>オイカワ</b> 流水性を好む魚で、河川から流入したと思われる。 31		<b>ヌマチチブ</b> ハゼの仲間。腹ビレが吸盤状になり、川を遡上する。気性が荒く、飼育下でよくケンカする。 4		<b>コイ(飼育型)</b> 全国で見られるが、実は品種改良された魚であり、国内の在来のコイはほぼ絶滅に近い。 10
	<b>ナマズ</b> 肉食性の魚で、近年数を減らしている。岐阜県では好んで食べられる。 1		<b>ヨシノボリ類</b> ハゼの仲間。本種は同定が難しく、ヨシノボリ類と記録する。婚姻色が美しい。 12		<b>フナ類</b> 本種も同定が難しく、類とする。品種改良されたヘラブナと思われる個体が多かった。 3
	<b>コウライモロコ</b> 濃尾平野の魚であるが、愛知用水の流入するため池でよく見られる。 5		<b>ワカサギ</b> 関東以北の魚であり、愛知用水によって知多半島にも広がる。味がよく、釣りの対象とされる。 1		<b>ブラックバス</b> 北アメリカ原産の魚であり、魚食性が強く、特定外来生物に指定されている。 2
	<b>コウライニゴイ</b> コイに似るという意味でニゴイという和名であるが、口吻が長く突出する点でコイと違う。 3		<b>ハス</b> 琵琶湖淀川水系および三方五湖のみに分布する魚である。オイカワに似るが肉食性。 2		<b>ブルーギル</b> 同じく特定外来生物に指定されており、他種の卵をよく食べるため被害が大きい。 3
	<b>カマツカ</b> 流水性を好み、河川によく見られる。味が良く、カワギスと呼ばれ好まれる。 1		<b>ホンモロコ</b> 琵琶湖固有種で味が良い魚である。近年愛知用水流域でよく見られる。 4		

在来種

国内移入種

国外移入種

## 結果

- 期待した漁獲量は得られなかった。時期的に大型魚類は深場へ移動し、地引網が底を捉えられなかったと思われる。一度放たれた外来種を捕獲する事の難しさを実感した。
- 魚種としては多数確認する事ができ、三好池の魚類相が伺えた。
- 在来種は、オイカワ、ナマズ、コウライモロコ、コウライニゴイ、カマツカ、ヌマチチブ、ヨシノボリ類が見られ、外来種ではブラックバス、ブルーギルなどの国外移入種だけでなく、ワカサギ、ハス、ホンモロコなどの国内移入種も多く、事前調査では放流されたコイ（飼育型）や、雑種とみられるフナも確認できた。

## 考察

- 今回の調査で確認できた魚類14種のうち、半数にあたる7種は国内移入種や、飼育型を含む外来種であり、健全な生態系とは言えなかった。
- 国外移入種であるブラックバスやブルーギルによる食害は生態系への影響が大きい。国内移入種についても、ワカサギは魚食性がなく影響は少ないが、魚食性の強いハスや、濃尾平野産のタモロコと交雑する琵琶湖固有種のホンモロコは生態系を脅かす事も危惧される。
- 環境改善を目的に多くの方にお集まり頂く事ができた。あまり魚はとれなかったが、外来種駆除を関係者で行えた事は、意味があった。

元々農業用水路やため池などは人が手をかけて維持してきた環境であるが、その環境を好む魚類が多数存在し、人は農業活動によって意識外に多くの魚類と共生してきた。今回の様な活動を通じ、農村の環境が変化の中で愛知用水や農業と生物の関係を話題とする機会としたい。